

令和6年度
新開小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 基礎基本の定着とそれを活用し、表現する力の育成
- 主体的・対話的で深い学びの実践
- 学校と家庭との連携による家庭学習や読書習慣の確立

学力向上検討委員会構成

- | | |
|---------|---|
| 学力向上推進員 | 委員 |
| 川口 紋乃 | 校長：西山稔江、教頭：尾崎啓明、教務主任：篠原美樹
研修・国語主任(4年担任)：川口紋乃 特別支援コーディネーター：渡邊真理 |

校長 西山稔江

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取り組み状況の把握を行う。

(1) 知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎的な知識を身につけている児童が多く、課題に真面目に取り組む、課題解決に向けて努力することができる。 ●計算のケアレスミスがある。問いを読み取る力、知識の活用力が低い児童が見られる。	・漢字や計算の力を確実に身に付けている。(テストで習得率80%以上児童が8割を超える。) ・発達段階に合わせた話の聞き方ができる。 ・学習して習得した知識を、他の単元や学習の場面で関連付けたり、活用したりすることができる。	・朝の活動や家庭学習を利用して、計算や漢字ローマ字の問題に繰り返し取り組みせたりミニテストを行ったりする。 ・繰り返しドリルを活用し、文章中で漢字を使用できるようにする。 ・ICT機器を活用した学習活動を行い、知識を活用する場を設ける。 ・話の聞き方を指導し、話の内容が理解できているか確かめる。	・習得した漢字やローマ字、計算を活用する場を授業の中で意識的に作る。 ・タブレットを活用してローマ字を習得させる。	・繰り返し学習に取り組ませたことで漢字・計算・ローマ字は多くの児童が80%以上を習得した。 ・話の聞き方や習得した知識を活用することについてはできていない児童が80%に達していない状況であった。	・新聞作りや作文の機会、AIドリルの活用回数を増やし、習得した知識の活用を図る。 ・話の聞き方や話し方の例を教室や黒板などに提示し、児童が毎回確認できるようにする。

(2) 思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○めあてを持ったグループ活動やペア活動により、積極的な思考や発言が増えつつある。 ○タブレットの活用により写真や文章で自分の考えを示すことができる児童が増えた。 ●学校全体的に児童の読書量が少ない。 ●自分の考えを読み書きで言語化することが苦手な児童がいる。 ●課題解決的な学習に対して受け身の児童がいる。児童自身が課題解決の方法を互いに話し合っており、深めるまでには至っていない。	・課題解決に主体的に取り組む、考えを持ち、友達と話し合ったりしながら学習を深めることができる。 ・新しく学んだことや友達の考えを活かして思考・表現することができる。 ・発達段階に応じて、根拠を明らかにして、自分の考えを適切に表現できる。 ・課題や目的に応じて、タブレット端末を効果的に活用し、情報収集したり表現したりできる。 ・自ら進んで読書に取り組むことができる。 ・一日に15分以上読書ができる。	・朝の活動の時間に学校全体で読書の時間を作る。並行読書や本の紹介、子供新聞を読む活動を取り入れ、叙述に基づいた読み方ができるようにする。市立図書館、週末読書、ブックカードを活用する。 ・読んだ本や新聞記事に対する感想を書く活動を取り入れる。 ・日記、短文作り、新聞作りで知識や語彙を活用する機会を増やす。 ・話形を提示して発表や話し合いの練習をさせる。 ・ICT機器やホワイトボード、付箋等を活用し、自分の考えを表現しやすく、個別最適な学びを支援する。 ・タブレットを学習過程の記録(思考、実験の様子)に活用し個別でも学習を深める材料を残していく。	朝の活動や授業の中で、教師が児童の発達段階に応じた本を読み聞かせる。 ・子ども新聞の記事に対する自分の考えを伝える活動や、自分の好きな本を紹介し合う活動を取り入れる。	・グループ活動やペア活動に取り組ませることで、積極的な思考や発言、学びの深まりが見られた。自分の考えを友達の意見につなげて伝えられたり、理由まで説明したりすることもできるようになってきた。 ・タブレットを活用したことで写真や文章で自分の考えを示すことができる児童が増えた。 ・読書習慣が身についた児童もいるが身につけていない児童も多い。	・タブレットを引き続き活用し、考えを示したり交流したりする機会を作る。 ・読み聞かせや図書室の工夫、読書に関する宿題などを取り入れて読書習慣がつけられるようにする。 ・話形を提示したものを教室内に掲示し、発表や話し合いの練習をさせる。

(3) 主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○課題に真面目に取り組む、宿題もほとんどの児童が毎日提出できる。 ○多くの児童が元気な声であいさつできる。 ●自己表現への苦手意識や自信のなさから、学習態度が受動的な児童がいる。また、生活習慣の乱れにより集中が途切れる児童もいる。 ●自習勉強への取り組み具合に差がある。 ●掃除中私語をしている児童が多い。	・「自ら学ぶ 進んであいさつ いきいき運動 ピカピカお掃除」ができる。 ・学習状況や生活を振り返り、自らの頑張りとよさ、今後の課題を自覚することができる。 ・「家庭学習の手引き」を活用し、めあてを持って読書や家庭学習に取り組むことができる。 ・子供同士や外部人材との関わりにより、自分と異なる考え方や新たなものの見方を取り入れ活用できる。	・学校全体でポジティブな行動支援に取り組む。(特に清掃に対して) ・話し合いや他者と関わる活動を効果的に取り入れ、児童の主体性を育む授業改善に取り組む。 ・個々の目標に合った自主学習の内容や仕方を奨励し、自主学習ノートを紹介したり、振り返りを丁寧にしたりしてそれぞれのよさや能力の高まりを認めて褒める。 ・「家庭学習の手引き」や「家庭学習チャレンジシート」「生活習慣チェックシート」を活用して、保護者と連携して学習の環境作り等の支援を行う。 ・毎授業めあてと振り返りの時間をしっかり取る。	・「家庭学習の手引き」の内容を示したり、「家庭学習チャレンジシート」の結果から見えてきた成果や課題を知らせたりして、家庭と連携して、より一層の啓発を行う。(特に読書・自主学習) ・要点を捉え丁寧にまとめられた自主学習を紹介・掲示する。	・清掃時の目標を達成しようとする前向きに清掃活動に取り組む児童が増えた。しかしめあてを継続して意識できていない児童もいる。 ・宿題はほとんどの児童がきちんとやり遂げることが出来ているが、読書や自主勉強への取り組み具合には差がある。 ・外部人材と関わり(人権学習)などで新たな考え方や物の見方を取り入れていく姿が見られた。	・児童の自主学習などを評価するスペースを作り、児童の自主学習への意欲を高める。 ・次年度も、懇談前にチャレンジシートを活用する。 ・定期的に家庭学習の手引きを提示し、活用する機会を増やす。 ・児童に身についたことが持続するように、児童の実態に合わせてその都度教員側からのアプローチをする。

令和6年度 学力向上ロードマップ



